

音楽科学習指導案

4年3組 29名 指導者 榮留 由華

本授業は、以下の検証を行うものである。

模範演奏を通して、今からつくる音楽に見通しをもたせたり、思いや意図を基に、友達と協働して試行錯誤しながら音楽をつくる活動を設定したりすることは、音楽科における「主体的に学習に取り組む態度」に着目した授業改善の手立てとして有効であったか。

- 1 題材** いろいろなリズムを感じ取ろう
教材 「風のメロディー」平野祐香里作詞／鹿谷美緒子作曲
「クラッピングファンタジー第7番 楽しいマーチ」長谷部匡俊作曲
「いろんな木の実」中山知子日本語詞／西インド諸島民謡／加賀清孝編曲
「ピーナッツベンダー」モイセスシモン作曲
「言葉でリズムアンサンブル」(本時主教材)
- 2 目標** 拍子やリズムが生み出すよさや面白さを感じ取り、それらを生かして表現したり、友達と協働してリズムアンサンブルをつくったりする学習に進んで取り組むことができる。
- 3 評価規準**

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○ 言葉のリズムのつなげ方や重ね方のよさ、面白さに気付き、反復、呼びかけとこたえ、変化を用いて、音楽をつくる技能を身に付けて音楽をつくっている。	○ 言葉のリズム、反復、呼びかけとこたえや変化が生み出すよさや面白さを生かし、リズムのつなげ方や重ね方を工夫して、どのようにまとまりを意識したリズムアンサンブルをつくるかについて思いや意図をもっている。	○ 言葉のリズムやその組合せに興味・関心をもち、友達とリズムアンサンブルをつくる学習に進んで取り組もうとしている。

4 題材について

(1) 題材の位置とねらい

本題材では、これまでに身に付けてきた拍や拍子、リズムに対する感覚やそれを表現するための能力をより伸ばしていくことをねらいとしている。

「風のメロディー」は、旋律の音の動きから、曲の山をとらえやすい楽曲である。曲の山を中心として前後の強弱を工夫しながら歌わせるようにしたい。「クラッピングファンタジー第7番 楽しいマーチ」は、リズムカルな伴奏や鍵盤ハーモニカの旋律にのって、分かりやすいリズムが展開されており、拍にのって手拍子を演奏する楽しさを味わいやすい楽曲である。二つの手拍子パートと鍵盤ハーモニカのパートが互いの音をよく聴き合うことで、ぴったりと手拍子が合う心地よさや、他のパートと音を重ねる楽しさを味わわせたい。「いろんな木の実」は、のびやかな旋律と歯切れのよい旋律で構成されていて、拍の流れにのって表現することができる楽曲である。ギロやマラカス、クラベスによる特徴的なリズムを体験し、歌とリズム伴奏を合わせる楽しさを味わわせたい。「ピーナッツベンダー」は、陽気な旋律に合わせてラテン打楽器の音色や特徴的なリズムを感じ取りやすい楽曲である。のびやかな旋律に合わせて打楽器を演奏する楽しさや、打楽器が活躍する音楽のよさを味わわせたい。「言葉でリズムアンサンブル」は、一つの言葉を素材にしたリズムを拡大、縮小させて三つのリズムをつくり、音楽の仕組みを生かしながら組み合わせ、リズムアンサンブルをつくる教材である。言葉がもつ語感やリズムの面白さを感じ取りながら、友達とリズムをつないだり重ねたりしてつくる楽しさを味わわせたい。

このような楽曲を通して、これまでに身に付けてきた拍や拍子、リズムに対する感覚をより一層高める学習を行うことは、友達と心を合わせて合唱や合奏に取り組む上で大切な基礎となり、今後の学習に生かすことができるものである。

(2) 子供について

本学級の子供たちは、音楽科の学習に対する興味・関心が高く、進んで表現や鑑賞の様々な活動に取り組む子供が多い。そして、拍にのって歌ったり演奏したり、即興的にリズムを手拍子することを楽しむ子供が増えてきた。しかし、音楽の仕組みを生かして思いや意図をもって音楽をつくったり、友達と協働して音楽をつくる楽しさを実感したりするまでには至っていない子供もいる。そこで本題材では、拍子やリズムによって曲想が異なることに気付かせ、反復や変化など音楽の仕組みが生み出す面白さを生かして、思いや意図をもって友達と協働して音楽をつくることのできるようにする。

(3) 指導について

本題材では、これまでに身に付けてきた拍や拍子、リズムに対する感覚をより一層高めることができるようにしたい。そのために、表現領域と鑑賞領域を関連付けて、効果的な学習が展開できるようにする。表現領域の音楽づくりの分野では、今からつくる音楽の感じをイメージしたり、自分との「対話」の中で、既習事項と比較しながら見通しをもったりすることができるように、模範演奏を目の前で聴いて、音楽と「対話」する活動の充実を図るようにする。そして、グループで音楽をつくる場面において、個人の思いや意図を伝え合い友達とつなげて音楽をつくったり、友達との「対話」を通してグループでテーマを決めて、共通の思いや意図を基に音楽をつくったりする活動を設定する。そうすることで、思いや意図を基に試行錯誤しながら音楽をつくる学習に粘り強く取り組んだり、協働して音楽をつくる中で友達の考えやアドバイスを基に自らの学習を調整したりすることにつながるようにしたい。また、鑑賞領域では打楽器の音やリズムに着目して音楽を聴かせたり、音楽の構造(気付いたこと)と曲想(感じたこと)を関連付ける活動を設定したりする。そして、前時に学習した音楽表現について想起してから音楽を聴いたり、鑑賞曲に合わせて打楽器で演奏したりする時間を設定し、より楽曲に親しみがもてるような学習の充実を図っていくようにしたい。

5 指導計画 (総時数 9 時間)

次	主な学習活動	重点的な共通事項	時間
1	風のメロディー 1 曲想をつかみ、8分の6拍子の特徴を感じ取りながら歌う。	リズム 拍	1
	2 旋律の音の動きを感じ取り、強弱記号を生かして工夫して歌う。	フレーズ 旋律、強弱	1
2	クラッピングファンタジー第7番 楽しいマーチ 3 リズムの面白さを感じ取りながら、手拍子のリズムを演奏する。	リズム 拍	1
	4 手拍子のリズムと鍵盤ハーモニカの旋律を合わせて演奏する。	呼びかけとこたえ 音楽の縦と横の関係	1
3	いろんな木の実 ピーナッツベンダー 5 打楽器のリズムの面白さを感じ取って歌ったり、リズムを演奏したりする。	音色 リズム	1
	6 打楽器の音色やリズムの特徴を感じ取って聴いたり、歌と打楽器のリズムを合わせて、拍にのって演奏したりする。	拍 音の重なり	1
4	言葉でリズムアンサンブル 7 4文字の言葉のリズムを拡大したり縮小したりしてリズムをつくり、8小節のリズムアンサンブルをつくる。	リズム 拍	1
	8 リズムのつなげ方や重ね方を工夫して、グループのリズムアンサンブルをつくる。	反復、変化 呼びかけとこたえ	1 (本時)
	9 つくったリズムを発表し合ったり、学級全体でつないで演奏したりする。	反復、変化 呼びかけとこたえ	1

6 本時 (8/9)

(1) 目標

リズムのつなげ方や重ね方を工夫して、グループのリズムアンサンブルをつくることのできるようにする。

(2) 評価規準

言葉のリズムやその組合せに興味・関心をもち、友達とリズムアンサンブルをつくる学習に進んで取り組もうとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 指導に当たって

「つかむ・見通す」過程では、ロイロノートで作成した模範演奏を聴かせることで、今からつくる音楽の感じをイメージしたり、既習事項と比較しながら音楽の仕組みを理解して、見通しをもったりすることができるようにする。「追究する・磨き合う」過程では、グループで思いや意図を基に音楽をつくる活動を設定することで、音楽の仕組みが生み出すよさや面白さを生かして、友達と協働して音楽をつくることができるようにする。「振り返る」過程では、音楽の仕組みについての観点で振り返らせることで、前時からの自分の変容を実感させ、本時の達成感を味わうことができるようにする。

(4) 本時の展開

[] 子供の意識 ○ 指導の手立て ※ 評価規準

過程	時間	主な学習活動	指導の手立て
つかむ・見通す	10	1 前時の学習を振り返り、音楽の仕組みを確認する。 ・ 繰り返しをつかった音楽だったね。 ・ 鹿児島にちなんだ4文字の言葉を考えたね。 2 学習課題を確かめる。 どのよう工夫したら、自分たちだけのリズムアンサンブルが作ることができるだろうか。	○ 前時に学習したことを掲示して確認したり、実際に声に出す活動を設定したりすることで、楽しい雰囲気で見通しをもって学習に取り組むことができるようにする。 ○ ロイロノートで作成した楽譜を提示し、模範演奏を聴かせることで、今からつくる音楽の感じをイメージすることができるようにする。
追究する	10	3 模範演奏を聴く。 ・ 最初は呼びかけと答えが使われていて、同じリズムで終わっているな。 ・ 早く私たちも音楽をつくりたいな。 4 教師が工夫したところを考えたり、音楽の作り方を確認したりする。 ・ 同じリズムを繰り返したり、重ねたりしたら面白そう。 ・ 1段つくったら、声を出してやってみよう。	○ 工夫したことを教師や友達と「対話」しながら考える活動を設定することで、音楽の仕組みや音楽の作り方を理解することができるようにする。 ○ ワークシート上でカードを並び替えることと、実際に声を出すことを繰り返して行うことで、試行錯誤しながら音楽をつくる学習に粘り強く取り組むことができるようにする。
磨き合う	20	5 音楽の仕組みを生かして、グループでリズムアンサンブルをつくる。 ・ 最後は、変化するようにリズムを重ねてみよう。 ・ 盛り上がるような音楽にしたいな。 6 中間発表をする。 ・ 三種類のリズムを重ねて、盛り上がるようにしました。 ・ 音楽の仕組みを全部使って、作りました。	○ 友達との「対話」を通してグループで思いや意図を基に音楽をつくる活動を設定することで、友達の考えやアドバイスを基に自らの学習を調整することができるようにする。 ※ 言葉のリズムやその組合せに興味・関心をもち、友達とリズムアンサンブルをつくる学習に進んで取り組もうとしている。(行動観察・発表) 【主体的に学習に取り組む態度】
振り返る	5	7 本時の学習を振り返る。 音楽の仕組みを使ったり重ね方や終わり方を工夫したりすると、自分たちだけのリズムアンサンブルを作ることができる。 ・ 自分たちだけの音楽をみんなと協力してつくり、楽しかったな。 ・ 今度は学級みんなの音楽をつなげてみたい。	○ 中間発表で聴き合う活動を取り入れることで、他のグループが作った音楽のよさを感じたり、自分たちの音楽に生かしたりすることができるようにする。 ○ 振り返りの時間を設定することで、自らの成長や変容に気づき、達成感を味わうことができるようにする。